| 渡名喜村教育委員会 | ＴＥＬ：098-982015　Ｅメール：kyouiku@vill.tonaki.lg.jp |
|---|---|

## 1　実践事項

タイトル　「 学力向上につながる非認知能力を高める場面づくり 」

## 2　実践の方向性

本村は人口 320 余名の小規模自治体で、幼小中の幼児児童生徒数が 20 名の小規模校である。子どもは地域・家庭で育つと言われている。その観点で本村の学力向上を考える時、切磋琢磨して学び合う環境や集団の中で育つコミュニケーション力、協調性等を育むことが難しい状況にある。

そこで、本村で醸成することが難しい非認知能力としての上記にあげた課題である学びに向かう人間力（見えない学力）を育むことと、今求められている主体的・対話的・深い学びを体得する為に、「秋田県学びの体験事業」と「久米島蛍レンジャーとの交流事業」を実施している。今回は「秋田県学びの体験事業」について記する。

## 3 具体的な実践例

### ●「秋田県学びの体験事業」

#### (1)　はじめに

平成 30 年度から「秋田県学びの体験事業」を実施し、コロナ禍の令和 2 年 3 年を除いて今年度で 3 回目の交流学習である。当初は中学生と教師、令和元年からは小学 5・6 年生も派遣している。

#### (2)　ねらい

① 秋田県の児童・生徒の「学校生活の様子や仲間達との繋がり」「学習に取り組む意欲や姿勢」を学ぶ。
② 秋田県の文化・社会生活・自然の様子を見聞することにより、視野を広げ感性を豊かにする。
③ 授業等学校生活に入ることにより「学び合う楽しさと分かる喜び」を実感し学ぶ意欲の向上を図る。
④ 教育の先進地の取組「学び合い高め合う授業づくり」「主体的に学び深める授業づくり」「支持的風土のある学級・学校づくり」等を学ぶ。
⑤ 伝統的建造物等の探索を通して、地域の歴史や文化を学び、伝統文化の継承及び重要性を学ぶ。

#### (3)　実施内容

① 実施期日　　令和 4 年 11 月 14 日～11 月 19 日　5 泊 6 日
② 交流学習　　秋田県大仙市高梨小学校・仙北中学校（16 日・17 日）
③ 地域探索　　角館の武家屋敷（市指定史跡）　はなび・アム（花火伝統文化継承資料館）
　　田沢湖　秋田ふるさと村
④ 参加者　　小学 5 年・6 年生　3 名　　中学生 4 名　　教員 5 名　　教育委員会 2 名

#### (4)　交流学習で学んだこと

##### ①　小学児童の感想

・秋田に行く前の日は初めて飛行機に乗るので、とても楽しみでドキドキしていた。
・初めは緊張して自己紹介をする声が震えていたが、みんなが優しく話しかけてきたので、沢山の友達と仲良くなれて緊張がほぐれてきた。
・あいさつや発表を大きな声で明るくしていた。あいさつされるととても良い気持ちになった。
・秋田の自然は渡名喜とは異なりカエデやイチョウの紅葉がありとてもきれいでした。きりたんぽやあきたこまちの新米はおいしかった。
・高梨小学校のみんなは自分から積極的に手を上げ質問し発表をしていた。授業を分かりやすく教えてくれたり優しく接してくれた。
・先生の質問にたいしてほとんどの子が手を上げている。

人の良いところを伝えたりと、自分の意見や考えを素直に言うことができる。
・渡名喜に帰ったら、高梨小学校のように自分から挨拶し質問するなど、良いお手本になるように頑張りたい。

**② 中学生の感想**

・朝気温が－1度になり辺り一面に霜が降りて水たまりが凍り表面に氷の結晶ができていた。
・仙北中の生徒は挨拶や発表するときハキハキと喋り、何でも自分から積極的に挑戦している。
・授業はみんな自分から手を挙げ堂々と意見を述べイキイキ発表している。僕は人見知りなので自分から声をかけることや、ハキハキと喋ることが出来ないので、とても勉強になった。
・一番印象に残っていることは仙北中の生徒達が、初めて会う僕たちに優しく接してくれたり、分からないところを先生に積極的に質問していることです。
・国語の授業のグループで話合いながら自分の考えと友達の意見を比較しながら相違点を見いだし発表することがとても楽しかった。
・クラスのほとんどの人が自分の意見だけでなく他の人の意見と比較しながら考えを発表していたので、考えをより深めることができ、楽しく学ぶことができた。とてもいい交流学習でした。
・今回の交流学習を通してお互いの考えを比較して深める学習の大事さを学ぶことができた。これからは、一生懸命勉強し高校でも生かせるように頑張りたい。
・仙北中の生徒は「どうしたら解決することができるのか」と課題に対して多くの疑問を持ち授業を受けていた。これまでの自分は積極的に意見を発表したり、「何でこうなるのか」と疑問に思いながら授業を受けなかったので、とてもいい交流学習でした。

・秋田で学んだことを渡名喜の学校生活に活かしていき学校の雰囲気を良くしていきたい。

**③ 教師の感想**

・高梨小の児童は協調性があり、本校児童に積極的に声をかけてくれたり分からないところを教えてくれるなど支持的風土がある。
・教師は子どもたちの理解度を見取りながら丁寧に授業を進めていた。
・教師は子どもに「人の考えに流されずに自分の考えに自信をもって下さい。」と励まし常に自己決定させる場面をつくっている。
・教師は基本的に子どもたちの良い部分に目を向け悪い部分を指導する場面はほとんどなかった。そのことにより、きちんと頑張っている子が褒められる場面が多くなり学級の雰囲気が良くなっている。
・生徒自ら話合いながら課題解決を図ろうとする。堂々と自分の意見や考えを述べ、友達の考えに「そういうことか」と嬉しそうに理解を示す姿があった。対話的で深い学びが生徒主体で自然と行われている。
・教師は生徒に考えさせる時間を確保し教師が主導して授業を進めることが無かった。
・生徒が思考する材料や手立てを用意し、教師はコーディネータの役割を担っていた。主体的な学びをつくる参考になった。
・教師は児童の考えを尊重して間違えても否定せずに考えさせる言葉かけを行っている。
・小学低学年の教師は学習規律や発表の際の声の大きさ、伝え方、聞いている側の反応の仕方をきめ細かく指導していた。

## 4 成果と課題

① 秋田の自然や社会生活を体験し視野を拡げる機会になった。
② 子どもと教師共に、主体的・対話的・深い学びを直に体験することができ有意義であった。
③ 渡名喜で育むことが課題とされているコミュニケーション力や協調性を育む機会になった。